



振り返ったら

基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社長

大竹 勉

「おまえ、基礎地盤を受けてみる気あるか？」
25年前に卒業研究の恩師から紹介されたのがこの世界で生きる契機^{きっかけ}となった。さらに遡れば、水泳が取り持つ縁であった。大学に入っても水泳をやっていた自分は夏休みのある日、健康のためにと学内プールで泳いでいたその恩師から、「水泳を教えろ！」それが契機の種だった。

昭和49年7月、3ヶ月の新入社員研修が終わり、夏を迎えた頃に大阪赴任の辞令をもらった。東京発の各駅停車「こだま」の指定席には自分とかなり離れた席に初老の客がもう一人。駅弁シュウマイを買い込み、ビールを飲み、浜松でウナギ弁当を喰らい、これから起こるであろういろいろなことを想像しながら上方への赴任の旅を楽しんだ。

かけだしの2年間、琵琶湖の中、大津に近い所の人工島の建設現場が仕事場となった。圧密沈下による控え斜杭式矢板護岸の動態観測に従事した。土層の判別、地中変位計の埋設、鋼矢板へのひずみゲージ貼付け、データ測定と整理など湖上の観測小屋は狭いが地盤工学の広い世界を考えさせてくれた場所であった。

大阪勤務から解き放たれたのは赴任後7年が経過した頃であった。広島行きの辞令が下った。この地では、他社のエンジニアと意見の食い違いで口論したのが契機で広島大学の先生を中心とした勉強会に仲間入りの機会を得た。これを通じて、社外の技術者とのつながりの中で啓発されることを多く知った。しかし、生意気盛りだったことを思い出すと恥ずかしくなる。本州四国連絡橋児島・坂出ルートは岡山側始点、インターチェンジの軟弱地盤対策委員会にワークスとして参加でき

る機会を得た。大家の方々のご教示の一方で検討資料作りに神経をすり減らしたことをおぼえている。長男が生まれた朝、妻を一人産院に置き去りにして委員会のために東京に出かけ、その後3日間帰らなかった。この時の自分の薄情さが今でも責められているような気がする。

体力的に辛かった広島は6年間で解放されたが、それがたつたのかA型肝炎に罹り、生まれて初めての3ヶ月間の入院生活を送った。転勤辞令を抱え、かつ年度末の修羅場をベッドの上で仕事をすると意気込んでみたものの、周囲の仲間が全てを処理してくれた。自分一人が背負っているなんて思い上がりを反省した。

さらに西、九州への転勤は口には出さずに望んでいただけにその嬉しさは倍であった。技術とマネージメントの比率が逆転しつつある世代に入ろうとしていた。九州自動車道が熊本～鹿児島を繋ぐ最後の拠点^{かかとう}が加久藤トンネルとなった。近傍に人吉市民の水源を抱える地下水の影響検討では、火山地帯の帯水層の構造が複雑であり、水文地質の難しさを知った。ジェオロジストではない門外漢がイメージした世界は複雑系から単純化への変換であり、「おたくが解析した結果はなぜか合っているんだよ」そう云われた本気ともからかいたもとれる発注者の方の評価には複雑な思いがした。南九州の“しらす”の問題にも多く出会ったような気がしている。この分野での權威の先生方に貴重なことを教わった。火山、地下水、しらす、言葉の響きから九州が鮮明に蘇る。

家族共々馴れ親しんだ福岡には7年間しか住めずに、東北に移ってきたのが今から5年前、そ

の夏、九州は記録的な水不足に悩まされた。山野の至るところに水を湛える東北にいる自分の幸運さに感謝した。ここは季節の移ろいの潔さが心地よい。「山形盆地で生活を送れる人がうらやましい」。山形が好きになった。鈍い感受性しか持ち合わせてなかった関東平野育ちの自分がそのようになった背後には、故郷から遠ざかったことが大きく影響している。

この地では自分の生き方の部分にかかわる新たなことをし始めた。むしろ、それまでが余りにも無関心であり過ぎたと思うくらいである。45歳で初めてスキーに乗った。溺れるとはこんなことであろうか、相手が女性でなくて幸いであった。5シーズンが経過した今、“中級”を自称して恥じない。“軟岩”のランクと同じで幅があるから主観が入れる余地がある。テニス、会社の若い衆におだてられて始めた球技であるが、ゴルフに手を出したために3年程度で中断させてしまったものの初心者としては上手い方であると思った。ゴルフ、周囲の方々が親切に勧誘してくれたお陰で始めたが、スキーほど、いやテニスほどものめり込めないことに戸惑いながら前言を翻そうかとも思い始めた。幸い、五十肩で左肩を痛めたことが気持ち後ろ向きにさせている原因の一つになっている。このような愚痴に、しかめ面をするあの方この方、“そうだそうだ”と元の仲間に引きずり込もうとするあっちのお方の顔が浮かぶ。英会話も飽きず

に勉強している。おぼえることより忘れる方が多く、上達は望めないが、ぼけ防止のライフワークとして選んだ。

地質調査業協会では研修委員に加えていただいた。現在は研修委員長を仰せつかっている。当協会の活動や委員会行事「若手ゼミ」を通じて、会員各社の実に多くの方々と知り合えている。技術者の方々は若い人たちが多く、話を聞くほどに昔の自分に遡る。仕事を語るに決して雄弁ではない若い人たちへ声援を送りたくなる。そして、この道で歩んで欲しいと願う。

<自己紹介>

昭和24年12月12日生、射手座、A型、茨城県出身（千葉・埼玉・栃木・群馬の県境）

昭和49年3月、日本大学工学部土木工学科卒

昭和49年4月、基礎地盤コンサルタンツ㈱入社

昭和56年まで関西地方、昭和62年まで中四国地方、平成6年まで九州沖縄地方を歩いたお陰で、テレビで紹介される地域のあちこちに懐かしさを感じる。

現在、基礎地盤コンサルタンツ㈱東北支社 支社長

家族は妻、子供二人（男・女）と一緒に。田舎に元気であるが老いた母一人を残す、丈夫な間はその方が親孝行と割り切っている。

